

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 91

2023. 7

伊勢志摩スカイライン山頂から見える富士山



もくじ

最新式の血管造影撮影装置（アンギオ CT）を導入し、 第3血管造影室で運用開始	2
きらほし保育園卒園式を行いました／ 全身用骨密度測定装置導入	3
大規模地震時対応訓練を実施しました	4
MR I 装置更新～快適なMR I 検査の実現へ～	5
町立南伊勢病院との連携について／	6
鈴鹿厚生病院のDPATと防災について／ 急性・重症患者看護専門看護師	7
当院の糖尿食紹介	8

CHECK!



JA三重厚生連の
取り組みを紹介!



最新式の血管造影撮影装置(アンギオCT)を導入し、 第3血管造影室で運用開始

鈴鹿中央総合病院 IVR科：IVR 専門医・放射線科診断専門医 **中塚 豊真**

当院では令和元年度より三重県では唯一の診療科となる IVR 科が新設されました。IVR とはインターベンショナル・ラジオロジー (Interventional Radiology) の略で、「カテーテル治療」「血管内治療」とも言われて来ましたが、日本 IVR 学会では「画像下治療」と呼ぶ事を提唱しています。

昨年度末までに院内改装工事が終了し、アンギオ室が2部屋から3部屋へ拡充され、本年度より第3血管造影(アンギオ)室でも検査や治療が開始となり、多大なるご理解ご協力を賜りました関係者の皆様には心より感謝を申し上げます。

本装置は、大学病院に次いで導入となる県内で最も新しいアンギオ CT (IVR-CT) で、血管造影や穿刺手技において非常に有用です。小生が愛知県がんセンター病院のレジデントであった1992年に本邦で開発・導入された東芝製初号機を使用してから30年になりが過ぎ、現在では海外でも広く普及し、全世界で200台以上が導入され、改良・発展を続けています。

キャノン社製 Alphenix sky INFX-8000C 血管造影(X線透視)検査と Aquilion Prime SP i Edition 多列 CT 検査が同一寝台で可能なため、時間外の緊急検査も含めて、ほぼ全ての IVR 科手技を本装置で行い、治療精度・救命率の向上に寄与し、従来のアンギオ室から CT 室へのストレッチャーでの患者移動が不要となっています。

また IVR は主に局所麻酔で行う為、低侵襲かつ短期入院で繰り返し行える利点があり、幅広い患者が治療対象になり、令和4年9月からは肺・腎・骨軟部腫瘍のラジオ波焼灼(RFA)治療が保険適応に拡大され、今後ますます IVR のニーズが高まると思われ、医療費の削減も期待されます。

本最新装置を使用し、スタッフ一同、県内・外の皆様のご期待に応えられるよう、より一層の努力を重ねてまいります。



放射線技師やINE認定看護師(インターベンションエキスパートナース)スタッフら一同



血管造影室3室内

きらほし保育園卒園式を行いました

三重北医療センター 菰野厚生病院 副看護部長 辻 佳世

令和5年3月9日に院内保育園「きらほし保育園」の卒園式が行われ、今年度は1歳児から2歳児の7名が無事卒園を迎える事ができました。昨年は、コロナ禍であることから式が簡素化されていましたが、今年度は職員で会議室を可愛く飾りつけし、華やかな卒園式会場に設置しました。

また、今回は在園児および家族の参観も可能となり、所属長も式に参加してもらった為、盛大な式になりました。

式では、おめかしした園児とユニホーム姿の保護者が園長である小嶋院長より、「働くお母さんをよく助けてくれました」「頑張りました」と卒園証書を受け取り、また、卒園の記念として事務部長よりプレゼント。看護部長からは職員お手製のメダルを受け取るなどのセレモニーとなり、子供たちの満面の笑顔を見ることができました。その姿に癒され、仕事の疲れを忘れてしまうくらいに嬉し

くなりました。アフターコロナに向かっているなかでこのような笑顔があふれるようなイベントをたくさん行って行きたいと思いました。



全身用骨密度測定装置導入

三重北医療センターいなべ総合病院 診療放射線技師長 山崎圭三

この度、新たに骨密度測定装置を導入しました。骨密度や骨塩定量検査と言いますが、骨の強さ(骨粗しょう症)を判定するための代表的な検査です。

骨密度が正常範囲であっても、骨折リスクが高い患者さんがいることがわかってきており、調べると骨質に違いがあることが明らかになってきました。そこで骨粗しょう症の定義は「骨強度が低下し、骨折しやすくなる病気」と改められ、骨強度には骨密度が70%、骨質が30%関係している

と説明されるようになりました。骨粗しょう症は、骨密度と骨質の両方の劣化が影響しあって骨折リスクが高まる病気といえます。そのため、骨質も測定することが大切です。



今回導入した装置では、骨密度検査と同時にTBSを測定しています。TBSとは骨質の指標となる骨の微細な構造を表した値です。骨量と骨質を同時に測定することでより正確に骨の状態を評価することができます。

大規模地震時対応訓練を実施しました

松阪中央総合病院 救急科部長 谷口 健太郎



和南海地震の発生から約80年が経過していることから非常に切迫性の高い状態です。実際に発災すると、三重県沿岸部の災害拠点病院が浸水被害に遭うこと、23号線が津波浸水にて通行不能となることに加え、三重県の地理特性（南勢志摩地域、東紀州地域の要に松阪は位置すること）より当院においては非常に多数の重傷者対応が必要となります。

訓練の必要性に迫られながらも、コロナ禍において実動訓練が開催できない状況が続いていましたが、第8波もほぼ終息するタイミングも重なり、ようやく訓練が開催できました。

当日は、看護学生35名（傷病者役）、松阪地域広域消防組合職員、三重大学医学部付属病院DMATにも参加いただき合計178名が、院内災害対策本部、多数傷病者受入対応訓練に臨みましました。

コロナ禍で様々な病院行事が縮小されてきた中で、このような規模で訓練が開催出来たことは、非常に喜ばしいことであり、病院の職員全体が同じ目的を持って活動することの楽しさを改めて実感することが出来ました。

久しぶりの実動訓練であったこと、県外からの医療救護班支援に備え院内組織図の変更を行ったことから訓練はかなりの混乱が予想されたため、訓練の負荷は比較的軽く、「訓練を楽しむ事」「自分の担当する部門が何をしているかなんとかなく分かること」「訓



練をした満足感を得ること」を大目標として掲げました。

約2時間半の訓練を行い、混乱もありましたが思った以上に参加者が訓練を「楽しみ」かつ「真剣」に考え・活動しました。訓練参加後のアンケートでは、参加者のほぼ100%で「訓練が楽しかった」と、「訓練をしたという満足感があった」と回答しています。

2月25日に、南海トラフ大地震を想定とした、院内災害対策本部設置運営および多数傷病者受入訓練を実施しました。

南海トラフ地震は、平常時においても今後30年以内に発生する確率が70〜80%と言われています。また、過去の南海トラフ地震がほぼ100年間隔で発生している中、昭和東南海地震・昭



さらに喜ばしいことに今回の訓練にて、課題がたくさん見つかりました。世界では災害対応への考え方がブラッシュアップしている中、久しく訓練が行われなかった事を考えると当然の事です。今あるBCP・災害対策マニュアルをこの課題を基に改善・改訂し、次回以降は、「訓練を実施した」という満足感ではなく、「訓練課題に対して有効に活動することが出来た」という満足感が得られるように目標設定することで、コロナ禍で止まっていた病院の災害対応能力を向上させる正のスパイラルを再び駆け上げられるようになったことが、病院にとって非常に望ましい事と思われれます。



また、災害対応においては他職種連携・地域連携は必須であり、今後は消防、病院に加え三師会、行政にも参加を依頼出来る訓練を企画・実行していきたいと思えます。皆様、ご協力のほど宜しくお願い致します。



この度大台厚生病院では1.5T（テスラ）MRI装置を更新し、PHILIPS社製のIngenia Prodiva 1.5T CXを導入しました。本装置の特徴は、従来よりも性能が高いだけでなく、検査を受ける患者さんと、検査を行う我々診療放射線技師の快適性を大幅に向上させられることです。

まず特筆すべきは、新たに搭載された高速デジタル通信プラットフォームであるSyncテクノロジーにより高い画質を担保しつつ、高速撮像技術である圧縮センシングにより撮像時間が短縮されたことです。これらの技術の組み合わせによって、撮影部位にもよりますが、さらに高磁場（一般的に高磁場装置ほど画質が向上します）の3.0T装置に匹敵する画質を安定して提供することが可能になりました。

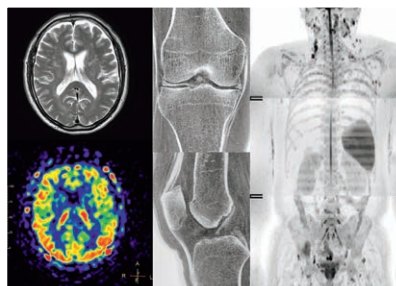
快適性については、撮影用コイルが軽量化されたことで患者さんの負担や圧迫感が軽減されることも、我々のポジションニング時間も短縮されました。また、MRI検査特有の騒音を軽減する静音化技術が搭載されたり、寝

MRI装置更新

大台厚生病院

〜快適なMRI検査の実現へ〜
放射線科 診療放射線技師主任 中西 俊博

台高が従来よりも低く設定されたことで、患者さんがより快適に、そして安全に検査を受けていただける環境が整いました。病院の性質上、高齢な方を検査する機会が多いこともあり、これらの特徴は、まさに当院にとって最適なものであると感じています。



「町立南伊勢病院との連携について」

～町民に必要な医療・ケアを提供するために～

南島メディカルセンター
事務部長 西浦 真

南伊勢町の指定管理者として厚生連が運営する南島メディカルセンターの使命は、「南伊勢町の地域医療・ケアを支える」「町民にとって必要な医療・ケアを継続的かつ包括的に展開する」ことです。令和3年9月の「南伊勢町の地域医療・ケアに関する包括連携協定」締結以降、当センターは、これまで以上に町立南伊勢病院（以下、「町立病院」といふ）と連携・協力体制を強化し、地域の限られた医療資源を有効に活用することで、町民に必要な医療・ケアを提供できるよう取組みを開始しました。令和4年度は、町立病院医師による当センター内科診療の支援継続・

南島地区での訪問診療、町立病院診療放射線技師による当センターでの超音波検査、酒徳センター長による町立病院での内視鏡検査など、両医療機関の医療提供体制を相互に充実させました。このほかにも地域連携部門間の連携強化（入院患者の情報共有や紹介手順の見直し等）、看護師による外来診療の相互視察、多職種による意見交換会など、両医療機関職員の間のみならず関係

作りにも積極的に取り組んで参りました。また、令和5年度には、両医療機関の診療データを相互参照できる電子カルテシステム導入が予定されています。町立病院との連携をさらに推し進め、より効率的で質の高い医療・介護を提供できるよう新しい契機としていきたいと考えております。

急速な人口減少や少子高齢化が進み、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が増え続ける南伊勢町において、当センターは、入院・外来の患者および老健入所者の確保、医師確保による医療提供体制の充実、通院困難者に対する在宅医療（訪問診療やオンライン診療等）の充実など取り組まなければならない課題が山積しております。

引き続き、町立病院および行政と連携・協力し、これらの課題解決に取り組むとともに、南伊勢町民から本当に必要とされる医療機関・介護施設であり続けられるよう、全職員が力を合わせて南島メディカルセンターの運営に取り組んで参ります。今後ともなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



▲ハートの入り江

▼南島大橋



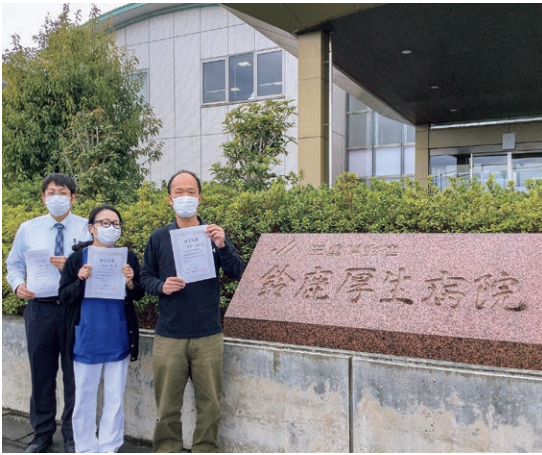
鈴鹿厚生病院のDPA-Tと防災について

鈴鹿厚生病院 感染管理室 看護部長 奥山香(感染管理認定看護師)

昭和19(1944)年に発生した東南海地震から70年以上が経過し、南海トラフ地震の今後30年内における発生確率は70〜80%、40年では90%程度(令和4年1月現在)と危機は刻々と迫っています。三重県は、全市町において南海トラフ地震が発生した場合に著しい地震災害が生ずるおそれのある『南海トラフ地震防災対策推進地域』に指定されています。

当院の想定される被害は液状化によるライフラインの寸断や建物の一部損壊、また非常用電源が設置されていない事による電子カルテや通信機器の作動不能などです。精神科における病院避難は受け入れ施設を探すことも困難であり、

籠城できる事が患者さんの命を守る一番の手立てとなります。そこで、災害に対し危機感を持ち組織として取り組んでいく必要を痛感します。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、防災訓練に患者さんが参加できず、実際を想定し危機感のある訓練が行えていない現状があります。精神科の患者さんは環境の変化にも敏感であり、災害時に誘導一つにしても混乱が生じることは歴然と



しています。また、今回の新型コロナウイルス感染症ではクラスターが発生して初めて、感染対策の重要さを組織全体が実感しました。災害に対してもBCP策定など平時からの備えと危機管理が必要であると考えています。組織一丸となって災害対策を行っていく意気込みです。さらに、当院は地域密着型の施設として、地域貢献にも重要な使命を担っています。DPA-T研修参加や登録も活発に行っており、年々DPA-T研修への参加希望者も増加しています。

急性・重症患者看護専門看護師

三重北医療センターいなべ総合病院 急性・重症患者看護専門看護師 辻内友恵

専門看護師とは、患者さんやご家族に起きている問題を総合的に捉えて判断する力と広い視野を持って、6つの役割の実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究を行い、施設全体や地域の看護の質の向上に努める看護師です。私は急性・重症患者看護の専門看護師を2022年12月に取得しました。

私は、クリティカル看護について学びたいと思い、上司の後押しもあり大学院の専門看護師コースで学ぶことを決めました。しかし、働ながら大学院で学ぶことは想像以上に大変でした。職場の暖かい協力体制や大学院の先生方の厳しさの中にある愛、家族の応援など、周囲の人にサポートしてもらい、乗り切ることができました。

現在HCUがある病棟で勤務しており、救急搬送後や手術後などにより生命の危機状態である患者さんやご家族に直面することがあります。患者さんの救命はもちろん大切です。



が、救命できた後一番いい状態で退院できるように、医療チームのそれぞれの職種の強みを活かして最善の治療・ケアを行い、患者さんやご家族の精神的なケアも大切にしていきたいと考えています。

当院の糖尿食紹介

松阪中央総合病院 栄養管理科 沖見 晃子

糖尿病の治療には食事が不可欠となります。糖尿病の患者さんには、個人に合った適正なエネルギー量で、栄養バランスの良い食事を提供しています。炭水化物や脂質の過剰摂取や、ビタミン・ミネラル・食物繊維の不足に注意して、メニューを組み合わせることが大切です。当院の糖尿食（1600 kcal/日）を紹介いたします。

作り方

- ① 鶏肉は一口大のそぎ切りにして、Aで下味を付けておく。
- ② 野菜は一口大の乱切りにする。油を熱したフライパンで、鶏肉を両面焼く。
- ③ 鶏肉に焼き目がついたら、野菜を入れて炒める
- ④ 全体に火が通ったら、Bを加えて混ぜ合わせ、水溶き片栗粉でとろみをつける。

ごはん…150g

酢鶏

【材料】（1人分）

- 鶏ムネ肉…80g
- 酒…2g
- しょうゆ…2g
- 油…6g
- 玉ねぎ…60g
- 人参…30g
- ピーマン…20g
- 砂糖…3g
- 酢…5g
- しょうゆ…5g
- 片栗粉…1g

B

A

洋風炒り卵

【材料】（1人分）

- 卵…1個
- ロースハム…10g
- ピザ用チーズ…10g
- ミックスベジタブル…10g
- 塩…適量
- こしょう…適量

作り方

- ① テフロン加工のフライパンで、ミックスベジタブルと短冊切りにしたハムを炒める。
- ② 溶き卵に、チーズ・塩・こしょうを入れる。
- ③ ①に②を加え、炒り卵を作る。

もやし生姜和え

【材料】（1人分）

- もやし…70g
- きゅうり…10g
- おろし生姜…1g
- しょうゆ…3g

作り方

- ① もやしは茹でて水気を絞っておく。
- ② きゅうりは千切りする。
- ③ ①・②を生姜としょうゆで和える。



栄養量（1食1人分）

- エネルギー量…600 kcal
- たんぱく質…34g
- 脂質…21g
- 塩分…2.3g

JA三重厚生連

人に 地域に やさしい看護

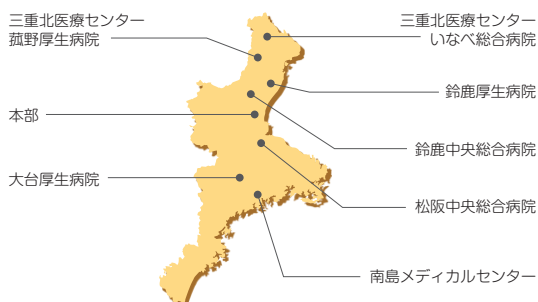
薬剤師

看護師

介護福祉士

看護補助員

募集



厚生連だより Vol.91

2023. 7 発行

発行／三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

http://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。